

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「叱るものさし」

〈叱る優先順位を考えよう〉

- ①コンビニで万引きをした
- ②下校時に雨が降ってきたので、玄関にあった誰かの傘を黙ってさして帰った
- ③学校にお菓子を持ち込んで食べた
- ④放課後、係の仕事をさぼって黙って下校した
- ⑤授業中に隠れてマンガを読んだ
- ⑥3階の教室のベランダの柵にまたがって友達と遊んだ
- ⑦授業を勝手に抜け出した
- ⑧クラスのある友達を「障害者だ」と馬鹿にした
- ⑨授業中に寝た
- ⑩一人の友達を数人で無視し続けた
- ⑪友達とケンカをして殴ってけがをさせた
- ⑫深夜、友達と公園で大騒ぎをして近隣に迷惑をかけた
- ⑬違反の服装で登校した



※引用：学校の「当たり前」をやめた。工藤 勇一 時事通信社より

Q1：13項目の中で、厳しく叱りたい、あるいは叱ってきた項目を選んでください。

Q2：選んだ項目の中で、何を一番厳しく叱りたいと思いますか。

何が正解ということはないが、その人の指導に対する感性や考え方、子どもの捉え方によって違いが生じる。著者は、子どもが問題行動を起こしたときに叱るメッセージは、子どものその後の生き方・価値観に影響するため、①行為一つ一つについて何が重要なのか、本質的に悪いことなのかどうか、その軽重をよく考えて指導する、②どうしてもよいこととどうでもよくないことを分けて叱る、③どうしてもよいことなら軽く注意を促し、命や人権に関わること、差別や暴力といった行為には厳しく対応し、自身の言動の意味を認識させる必要があると述べている。

著者の一番叱りたいのは、命が一番大切だということを指導したいという理由で⑥番である。その次は、人権や犯罪に関わることで、①番や②番、⑧番、⑩番、⑪番、⑫番となっている。校（園）内で、目標と指導の優先順位（叱る物さし）を考えることが大切となる。



とれたて直送便



もうすぐ完成、「教師応援ガイド」

昨年度、子育てに悩みを抱える保護者に、子どもと一緒に笑顔になってほしいと願い、「保護者応援ガイド」を作成しました。今年度は、学習・行動に困り感を抱える子どもを指導する先生方に、子どもの笑顔を増やしてほしいと願い、「教師応援ガイド」を作成中です。内容は、校（園）内支援体制の実際、子どもの見方・捉え方、子どもがつながり合う学級づくり、子どもの学びを支える授業づくり、保護者への支援、特別支援教育とおき情報、教師のまなざしです。8月中に各校（園）に送信しますので、どうぞご期待ください！